

第2部 「目標とする姿」への取組み状況(案)

■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、2024 年度を含む「主な指標の変化」(2007 年度～)と 2023 年度の特徴的なトピックスを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

【評価方法】

「よくがんばりました」……▲より○が3つ以上多い

「この調子でがんばろう」…▲より○が1～2つ多い

「もっとがんばろう」……○と▲が同数、または▲が多い

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます・・・p.7
- ② 里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています・・・p.11
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています・・・p.14
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます・・・p.18
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています・・・p.21
- ⑥ さまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています・・・p.24
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています・・・p.27
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、
1人あたりの排出量が徐々に減っています・・・p.30
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、
再生可能エネルギーの利用も増えています・・・p.33
- ⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています・・・p.36

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 さまざまな生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

目標像①

手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【主な取組みの方向】

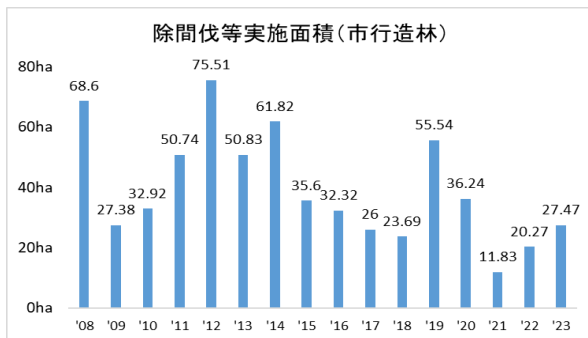
(1) (4) (5) (6) (9)

【具体イメージ】

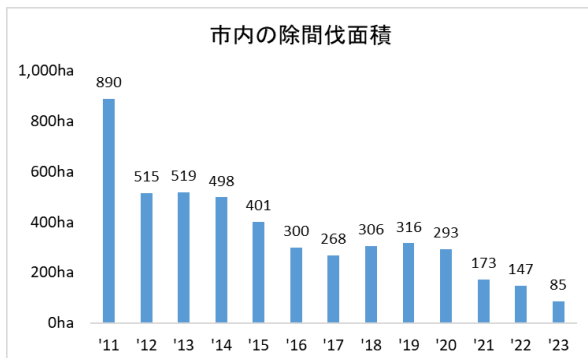
スギやヒノキの林は保育され、広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／パレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(I) 除間伐と植樹



- ・下草の生えた豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。
- ・「林業の担い手不足」が、間伐面積減少理由の一つに挙げられます。

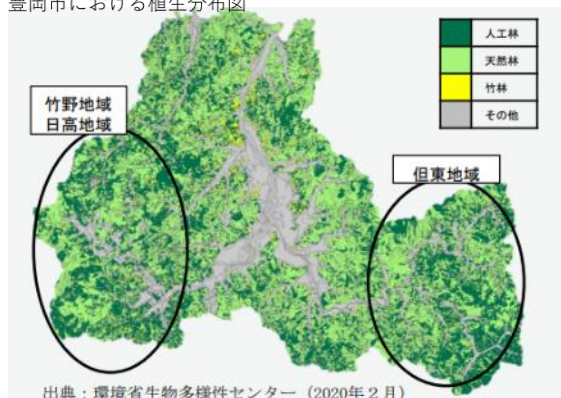


- ・豊岡市、ひょうご農林機構、民間すべての分収造林を含みます。

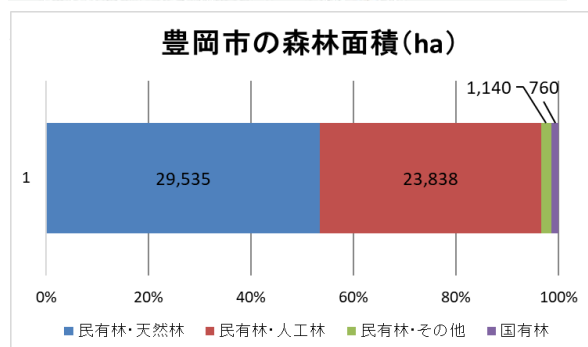
【分収造林】

造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林

豊岡市における植生分布図

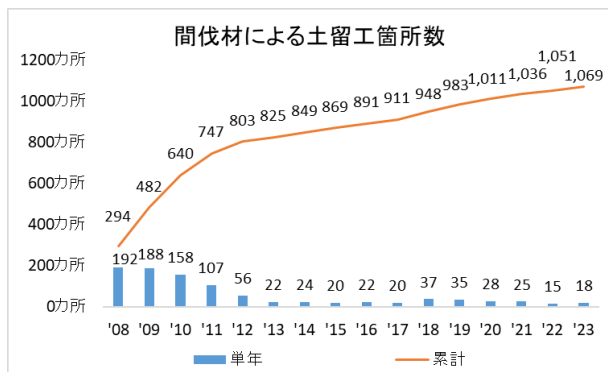


- ・豊岡市の面積の8割を森林が占め、人工林の大部分であるスギ、ヒノキの植林は31% 天然林のうち多くを占めるコナラ二次林は24%となっています。針葉樹と広葉樹が交じり合った“針広混交林”を整備することは、災害に強く生物多様性に富んだ森林に繋がります。
- ・豊岡市では、針葉樹に加え、シカの食害に強いとされるウリハダカエデやミツマタ、急峻な地形でも生育可能なケヤキ等の広葉樹種が一部で植樹されています。

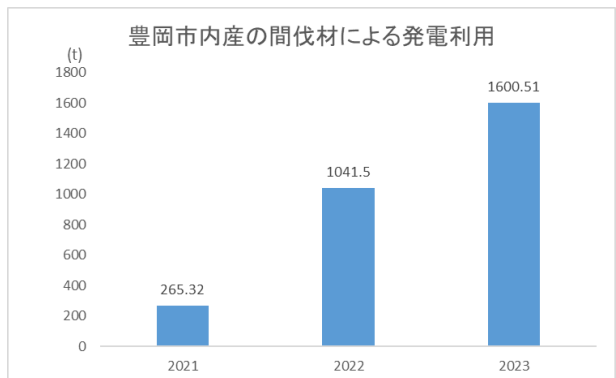


- ・豊岡市の森林面積のうち、約9割が民有林となっています。その内、コナラ林などの天然林が約50%、スギ・ヒノキ林などの針葉樹林が約40%となっています。【出典：兵庫県林業統計書(2024.3月発行)】

(2) 間伐材の利用

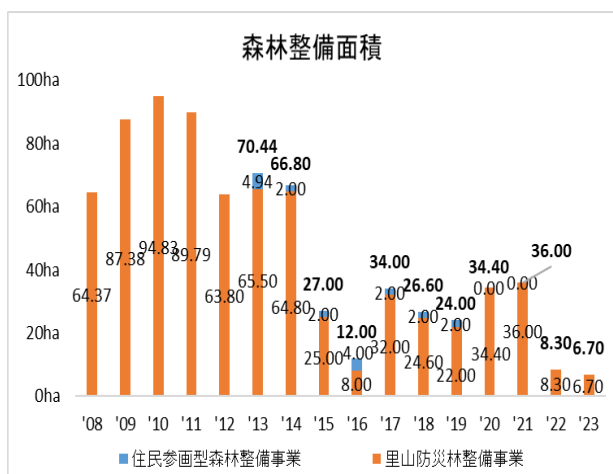


- ・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。



- ・豊岡市内産の間伐材をチップ化し、県内外（丹波市、赤穂市、鳥取市）の企業へ発電用材として提供しています。

(3) 森林の整備



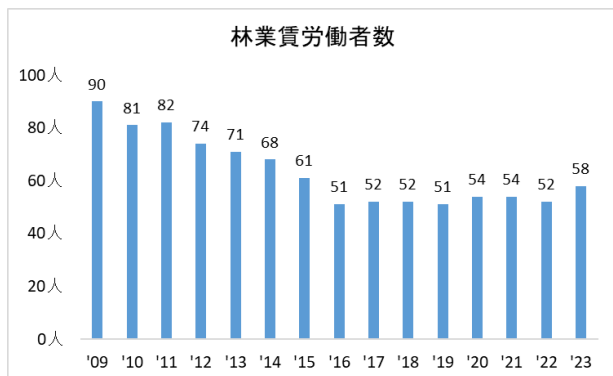
- ・住民参画型森林整備事業は、竹林、枯れ松、危険木伐採等により、集落の安全を確保する1カ年事業です。

（事業主体：兵庫県、実施主体：区、地域）

- ・里山防災林整備事業は、人家裏山の凹型斜面の崩壊、崩落を防ぐため、危険木伐採や簡易防災施設(丸太柵工等)整備を行います。2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します。

（事業主体：兵庫県、実施主体：林業事業体）

- ・2015年から豊岡市以外の地域でも里山防災林整備事業が進んだことによる予算配分のため、豊岡市での里山防災林整備面積が減少しています。

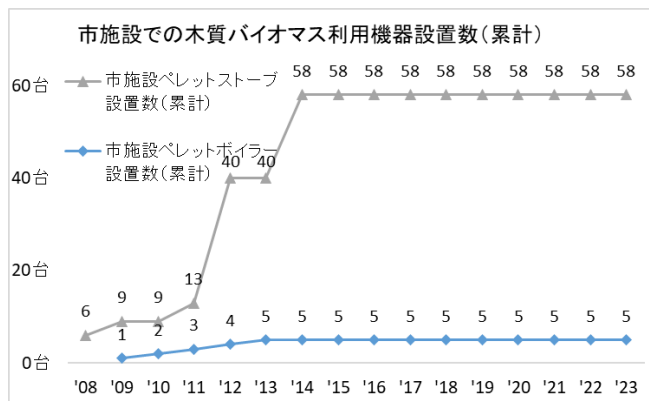


- ・豊岡での林業就業人口は、2009年から2023年にかけておよそ30人減少しています。【出典：兵庫県林業統計書 2009～2024年度発行】

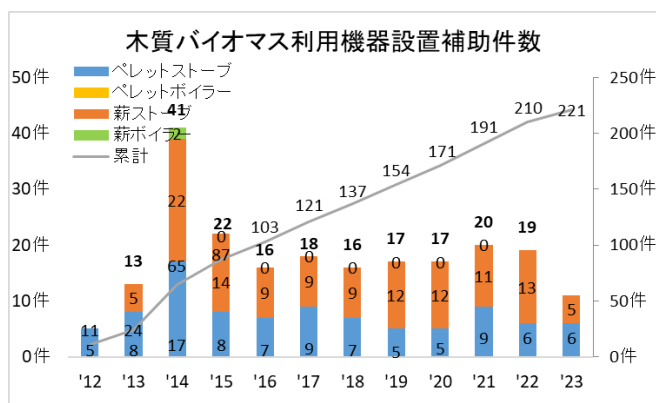
※1年度遅れでの発行となっている。

※林業賃労働者の定義は、年間50日以上現場（森林）で作業された方

(4) 木質バイオマス機器の利用



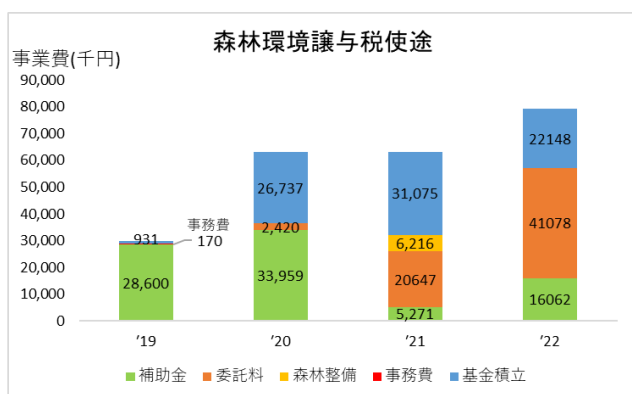
- ・2014 年以降、公共施設への木質バイオマス利用機器の設置は行っていません。
- ・政策効果が低下し、耐用年数も経過しているペレットストーブを計画的に撤去し、設置個所を大幅に縮小したうえで薪ストーブに順次切り替えて、脱炭素と市内産木材利用の普及を図ります。



- ・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利用するストーブ、ボイラーの利用を進めています。個人住宅、区の集会所、事業所を対象に補助しています。

(5) 森林環境譲与税の使途

- ・2019 年の「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」施行により、全国の自治体に森林環境譲与税が配分されています。市内の森林・林業の多様な問題に対応し、森林の持つ多面的機能を発揮していくためにも、森林環境譲与税を活用して森林整備をはじめ、人材育成や木材利用に関する施策を実施していきます。



- ・2019 年度、2020 年度は補助金としての使途が多く、木質バイオマス供給に必要な設備整備として、林業事業体が導入した林業機械等導入経費へ補助を行っています。
- ・2020 年度、2021 年度では森林環境譲与税の約半分が「森林環境基金」へ積み立てられています。基金は豊岡市新文化会館の内装に使用される兵庫県産木材の調達等に利用する計画です。
- ・2022 年度の委託料の増加は、森林調査の業務委託によるものです。

森林環境譲与税の活用

2019 年度から全国の自治体に森林環境譲与税が配分されています。豊岡市でも、森林・林業の多様な課題に対応し、森林の持つ多面的機能を発揮していくため、森林環境譲与税を活用し、森林整備をはじめとする事業を実施しています。

【2023 年度の主な事業】

■モデル森林の整備

但東町坂津地区をモデル区域とし、手入れを必要とする人工林を対象に、間伐等の森林整備を実施。

■雪害倒木緊急対策事業補助金

雪害倒木により停電が発生した地域で、区や地域コミュニティが実施する電線周辺の危険木の伐採を支援。



2 2023 年度評価

評価

- ▲木質バイオマス利用機器の設置が減少している。
- 森林・林業ビジョンの策定により持続可能で豊かな森林づくりに向けた具体的な取組みが推進されている。
- 森林環境譲与税が森林整備に計画的に利用されることで、森林の持つ水源かん養機能等の多面的機能の発揮に努め、適切な環境の維持存続が図られている。
- 豊岡市産の間伐材が「発電用材」として供給・利用されている。
- ▲放棄竹林等の増加により、森林が荒廃しています。

この調子で
がんばろう

目標像②

里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています

【主な取組みの方向】

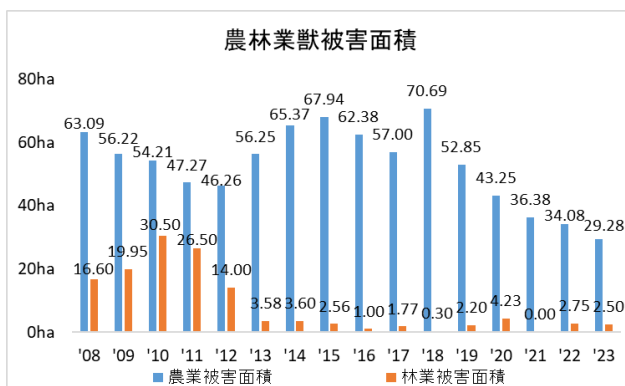
(1) (3) (4) (5) (9)
(13)

【具体イメージ】

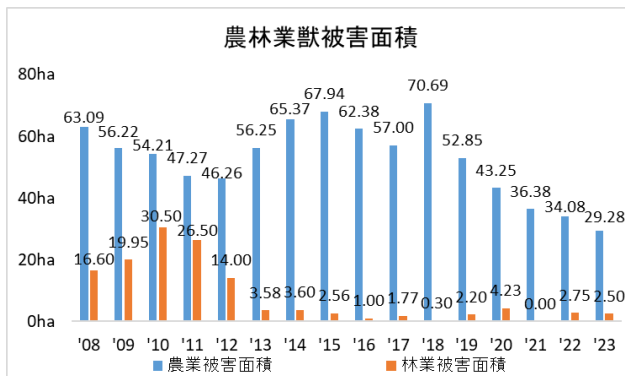
安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

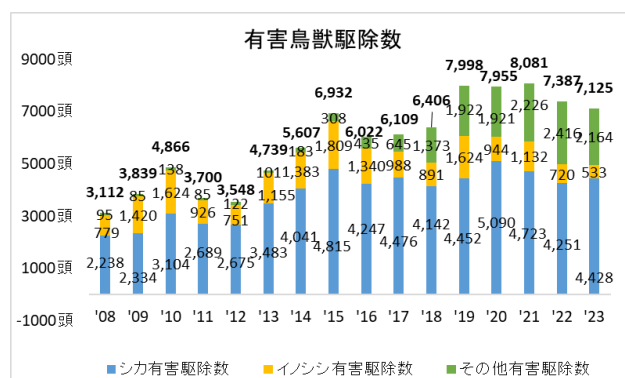
(I) 有害鳥獣対策



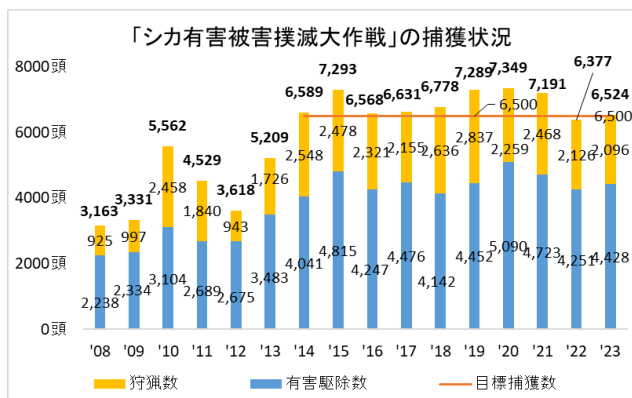
- ・継続した有害鳥獣駆除の取組みの成果が表れ農業被害は面積・被害額ともに年々減少がみられます。
- ・山奥から人里近くに被害が広がってきています。
- ・農業者アンケートを基に作成しているため、家庭菜園等の被害は含まれません。



- ・林業被害のほとんどはシカによるもので稚樹の食害が問題となっています。
- ・2021 年度ゼロであった有害鳥獣による林業被害は 2022 年度以降、再度発生しています。

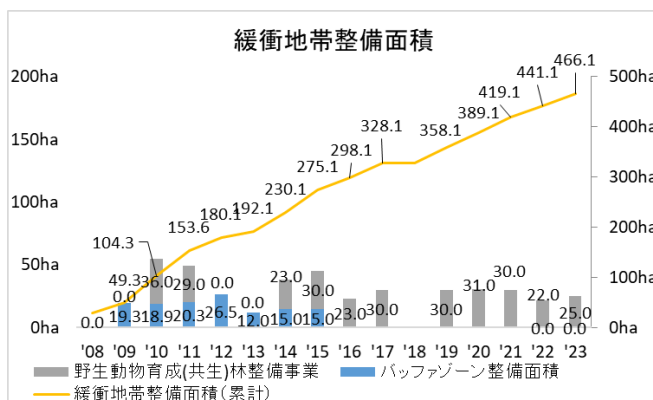


- ・シカやイノシシ、その他の有害鳥獣の駆除をすすめることによって、生息数の減少を図っています。
- ・野生動物の移動に伴い、ヤマビルやマダニの生息域が拡大しており、今後健康被害が増加していくことが懸念されています。
- ・「有害鳥獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11 月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。
- ・「その他有害駆除数」には、タヌキやアライグマ、ヌートリア、カワウ、サルなどが含まれます。

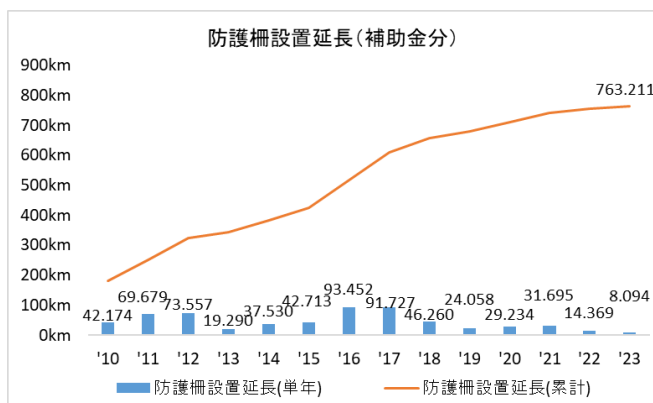


- ・兵庫県が策定する「ニホンジカ管理計画」に基づき、豊岡市では、2014年から年間捕獲数 6,500 頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。
- ・「狩猟数」は、狩猟期(11～3月)に個人が捕獲した頭数です。

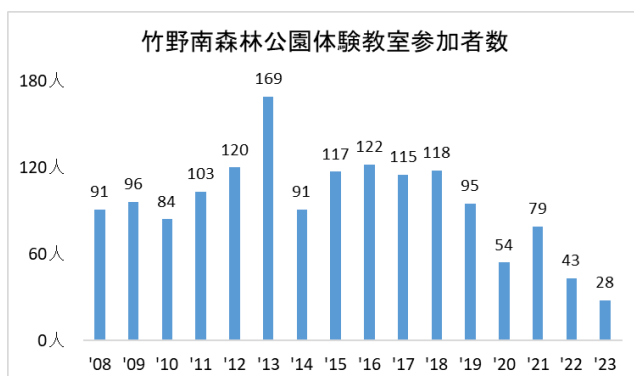
- ・「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当者で編成)が、有害獣として捕獲、駆除した頭数です。
- ・鳥獣保護管理法に基づき、捕獲物等は原則として持ち帰ることとし、やむを得ない場合に限り生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設することとしています。



- ・このグラフの緩衝地帯(バッファゾーン)とは、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約 20m の見通しの良い地帯を言います。
- ・バッファゾーン整備事業は 2009～2015 年度まで実施(事業主体：豊岡市)。
- ・野生動物育成(共生)林整備事業は、緩衝地帯と集落防護柵を一体整備する 2 カ年事業で、1 年目に調査、2 年目に整備します(事業主体：兵庫県)。
- ・2018 年度は調査だけのため実績がありません。

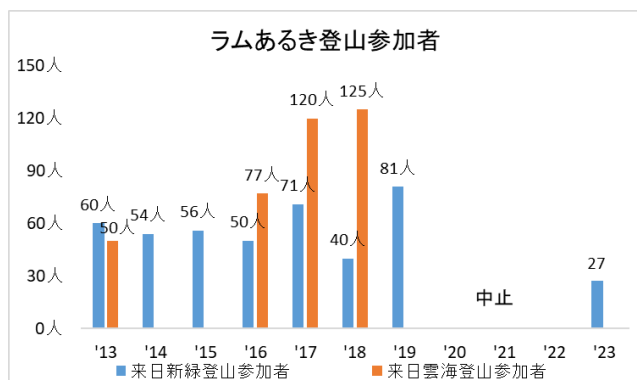


(2) 森林公園の利用



- ・竹野南森林公園では、毎年季節に合わせた体験教室を実施しています。
- ・2022 年度以降、新型コロナウイルス感染症によるイベント中止など、参加者数が減少しています。

(3) 森林ツーリズム

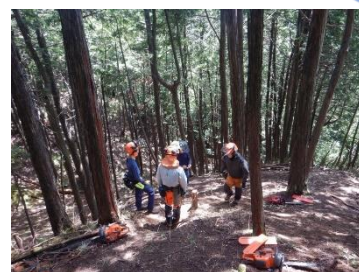


- ・2012年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録された翌年から、来日山の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベント「ラムあるき登山」を、5月と10月に地元主催で実施しています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止していましたが、新緑登山は再開となりました。雲海登山は、クマ出没のため、開催は見送られました。

林業の担い手を育成

ひょうご森林林業協同組合連合会の主催で、兵庫県内の林業事業体に就業した者（3年目までの者）を対象に、林業の担い手を育成するため、チェーンソーによる伐倒等の研修（全12回）が、豊岡市岩井の市有林「市立なさ里山の森」で行われました。

本市は、『豊岡市森林・林業ビジョン（2023年策定）』に掲げる「人材育成」と「人と森林のつながり」の実現に向けて、市有林での事業実施に協力しています。



Topics

2 2023年度評価

評価

- シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500 頭を9年目に初めて割り込んだものの、再び達成に転じている。
- 有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業獣被害面積や被害額は減少している。
- ▲有害鳥獣の生息範囲拡大に伴い、マダニやヤマビルも増え、安心して散策できない里山が増えている。

この調子で
がんばろう

目標像③

使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【主な取組みの方向】

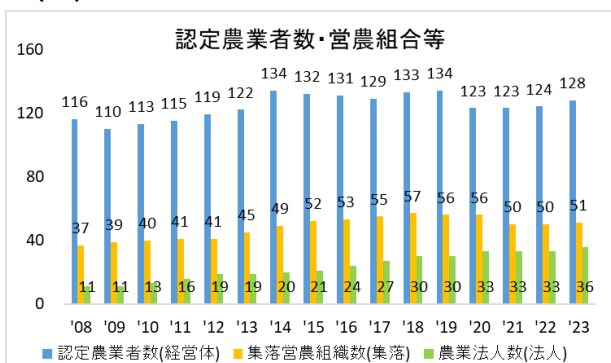
(3) (4) (5) (9) (10)
(13)

【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田などさまざまな使われ方で農地が活かされています

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

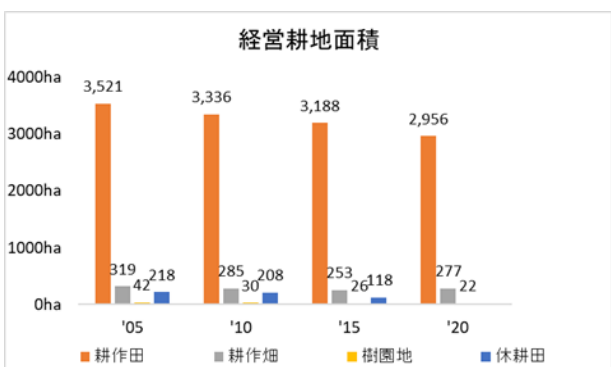
(I) 豊岡の農業の現状



・就農者の高齢化や減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

【認定農業者】

農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人

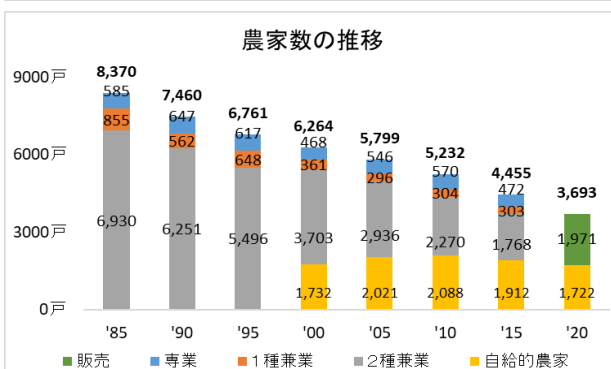


【経営耕地面積】

農家が経営する耕地の面積

2020 年から集計方法が変更。経営耕地のある経営体の数と経営耕地面積を把握（休耕地面積は把握せず）

- ・2000 年以降の専業、兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専兼業別調査が簡素化されました。
- ・2020 年から集計方法の変更に伴い、専業、兼業別の把握が廃止となり、「販売農家」の枠組みでの把握となります。
- ・高齢化や担い手不足により農家数が減少していると考えられます。
- ・「経営耕地面積」及び「農家数の推移」は、5 年に一度行われる農林業センサスの結果を記載しています。



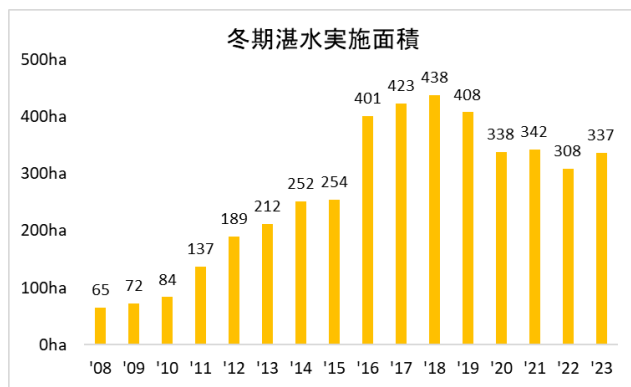
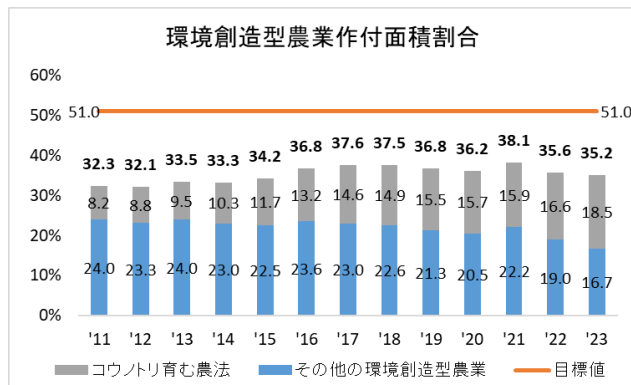
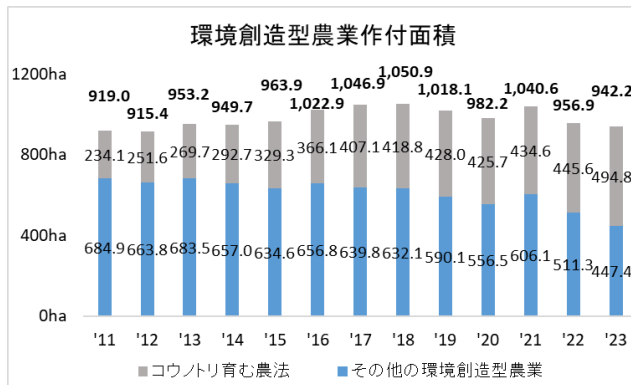
【第1種兼業農家】 農業所得を主とする兼業農家

【第2種兼業農家】 農業所得を従とする兼業農家

【販売農家】 経営耕地面積が 30a 以上または農産物販売金額が 50 万円以上の農家

【自給的農家】 経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家

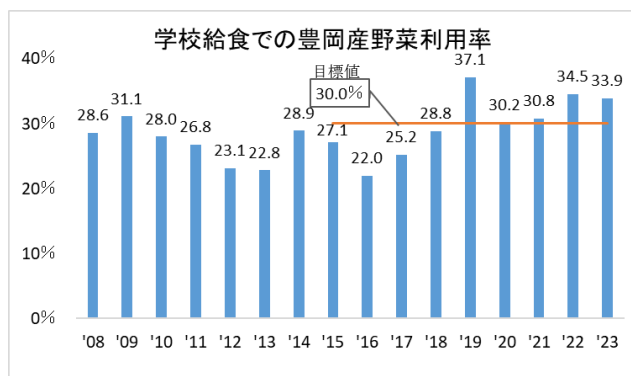
(2) 環境にやさしい農業



- ・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方法を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬、化学肥料 50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。
- ・水稲の慣行栽培では、薄いプラスチックでコーティングされた被覆肥料（一発肥料）とよばれる肥料が省力化のために広く使われていますが、近年プラスチック殻の水系への流出が問題となっています。コウノトリ育む農法等の環境創造型農業では、被覆肥料を使用しないため、生物多様性の向上に加え、環境負荷も軽減されます。

- ・冬期湛水は、冬にも田んぼに水を張ることです。生きものが豊かになり肥料分を含むトロトロ層(2～5cm)ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。
- ・2020 年度から、冬期湛水実施面積のデータ元である環境保全型農業直接支払交付金の制度変更に伴い、集計方法が変更となったことから、実施面積が減少しました。

(3) 地産地消



- ・豊岡産野菜は、「国民健康・栄養調査(厚生労働省)」の野菜の定義に則っています。いも類、果実類、きのこ類は含まれません。
- ・利用率は重量で計算しており、2015 年度から「30%以上の利用」を豊岡市独自の目標として設定し、現在 5 年連続で達成中です。
- ・地元生産者がピーマンなどを寄付する、児童たちが自分たちで作った野菜を調理して食べるなどの取組みも行われています。

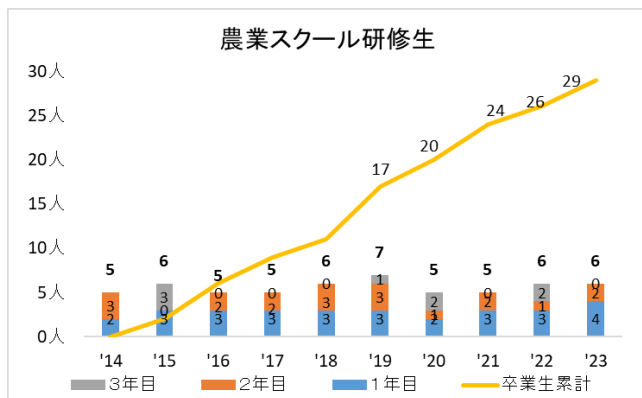
- ・2016 年度から、週 5 回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を使用しており、2022 年度からは無農薬のコウノトリ育むお米の提供が期間限定で始まりました。

年度	2022 年度	2023 年度
全体販売額(千円)	381,146	381,722
豊岡産物販売額(千円)	305,882	314,068
他産物販売額(千円)	75,264	67,654
豊岡産物販売割合(%)	80.3	82.3

※生産者からの委託販売(農産物、花、加工品)による販売金額

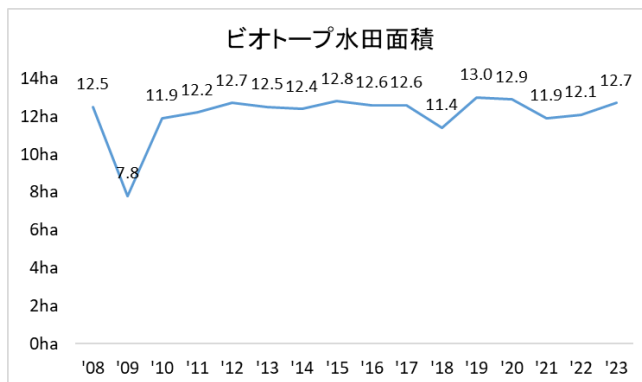
・2023年度のたじまんま豊岡店における豊岡産物販売額(生産者からの委託販売分)割合です。野菜や花、加工品が含まれます。

(4) 農業スクール研修生



- ・新規就農希望者が、就農に必要な生産技術と経営能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。
- ・卒業生は、雇用就農7名、独立自営就農18名とそれぞれが市内各地でコウノトリ育むお米やたじまピーマン、豊岡ぶどうや但馬牛の繁殖等、豊岡を代表する農畜産物の生産に取り組んでいます。

(5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトープ(生きものがすむ場所)水田」として豊岡市と管理委託契約を結んでいます。
- ・ビオトープ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積については、目標像⑦(p.29)に掲載しています。

市内小中学校の学校給食で「無農薬米」を提供

豊岡市では、子どもたちの発案で、市内小中学校の学校給食にコウノトリ育む農法で栽培したお米を提供しています。

2016 年 4 月から週 5 回の米飯給食の全量が「減農薬米」でしたが、2022 年度から同農法で栽培した「無農薬米」の提供を試験的に始めました。

2023 年度現在、学校給食への提供量は 8.7ha の面積で 21t を確保。約 3 カ月分の量になります。

2027 年度には給食全量を同農法の無農薬米で提供できるよう、取組みを推進していきます。



2 2023 年度評価

評価

- 学校給食での地場産物利用率が目標利用率を達成している。
- 環境創造型農業におけるコウノトリ育む農法の作付面積および割合は増加している。

この調子で
がんばろう

目標像④

あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な取組みの方向】

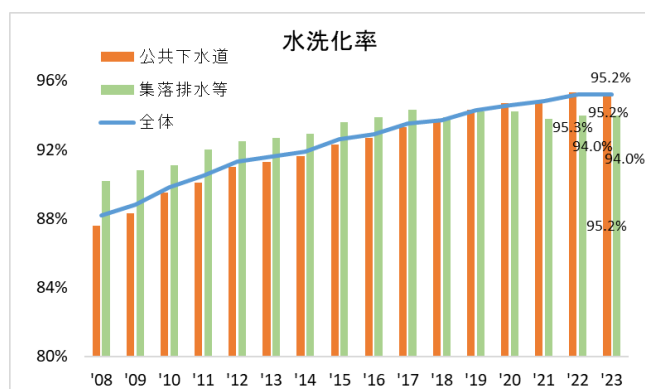
(2) (3) (5) (8) (9)
(11)

【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

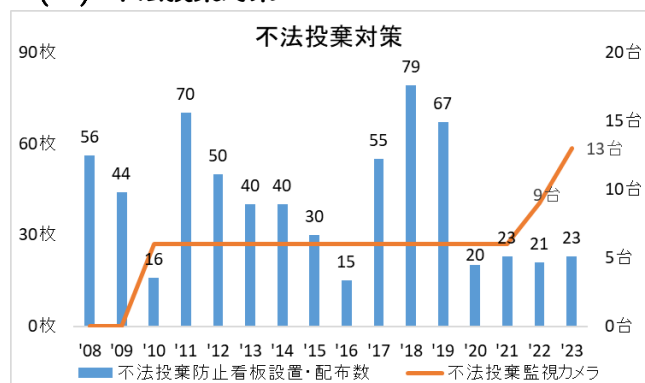
I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(1) 川の水質保全



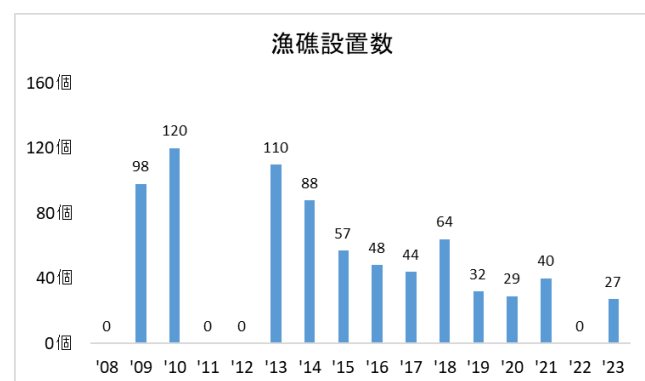
・河川の水質浄化につながる「水洗化率」は、95%を目標にしており、公共下水道では2022年度に達成されました。

(2) 不法投棄対策

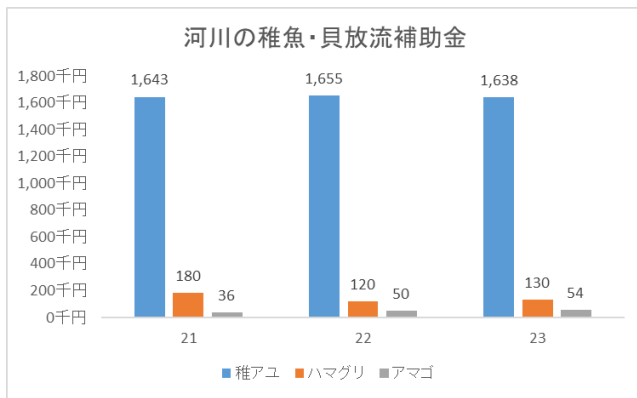


・不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や峠などに設置しています。
・家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが捨てられています。
・豊岡市のパトロール班が定期的に巡回しています。

(3) 水産資源保全

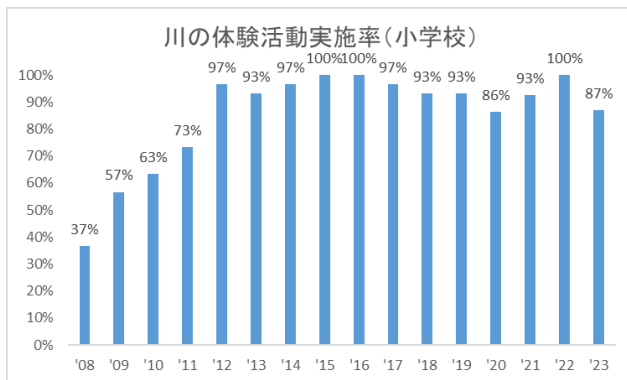


・漁礁は、魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される魚類のすみか（巣）や集まる場となるものです。
・2019年度以降の設置数は、漁礁のサイズが大きくなったことにより減少しています。



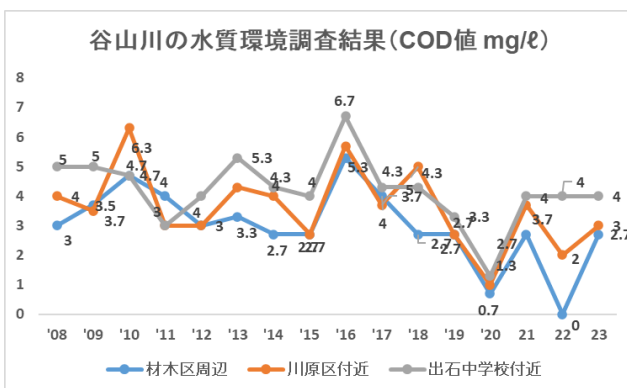
- ・豊岡市が、円山川漁業協同組合(アユ、ハマグリ)と竹野川漁業協同組合(アユ、アマゴ)に補助しています。

(4) 子どもたちの体験活動等



- ・2007年度に兵庫県下で「環境体験学習(小学3年生対象)」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。
- ・学校での活動の他、民間団体等も体験活動を実施しています。

※統廃合により市内の小中学校数は、減少しています。2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校、2022年から25校、2023年から23校。



- ・国土交通省が毎年実施している「身近な水環境の全国一斉調査」に併せ、2007年度から環境ネット出石が子どもたちと一緒に谷山川の水質調査や生きもの調査を実施しています。
- ・CODとは水中の有機物残存量を示すもので、値が低いほど水質が良いということを示しますが、直前の天候や水量によって数値に影響が出る場合もあります。

(5) 清掃活動

川沿いや海水浴場のある浜などで、地域住民やボランティアなどによる清掃活動が行われています。2023年度もさまざまな団体により河川、浜清掃が開催されるなど、コロナ禍以前の活動状態に戻りつつあります。

ボランティアで清掃活動をしてくださる市民や事業者がいることで、海や河川がきれいに保たれています。回収されている方々を頼るだけでなく、すべての人が【ごみを出さない】という努力をすることも求められます。

《活動例》

川清掃

清掃場所	活動主体
円山川河川敷、谷山川 等	円山川菜の花の会、谷山川を育む会・まもり隊、豊岡市商工会出石支部、下宮区、円山川を美しくする協議会 等

浜清掃

清掃場所	活動主体
気比の浜、田結の浜、竹野海岸、切浜海岸 等	港中学校、港小学校、港認定こども園、気比区、瀬戸区、田結区、切浜区、豊岡総合高等学校インターアクトクラブ、クラーク記念国際高等学校、近大附属豊岡高等学校、竹野観光協会青年部、豊岡市 等

出石川加陽湿地での問診型モニタリング調査

出石川沿いの加陽に整備した大規模湿地の整備効果を把握するため、2011年より毎年、地域と連携してモニタリング調査が行われています。

2023年は9月21日と22日に行われ、中筋小学校、地域住民、地元有識者が参加し、小学生の自然環境に対する関心の向上と、定量調査による湿地環境等の変化の把握に努めました。

出石川、三木川、開放型湿地、閉鎖型湿地の4カ所で調査が行われ、それぞれ7～11種、82～421の個体数であり、ほぼ例年と同じ個体種類と個体数が確認されました。



Topics

2 2023 年度評価

評価

- 子どもたちの川での体験活動が定着している。
- 清掃活動に取り組む方々が増えている。
- ▲不法投棄対策を行うことで家電等の大型ごみの不法投棄は減少しているが、空き缶等の不法投棄は未だ減っていない。
- 漁礁の設置が再開された。

この調子で
がんばろう

目標像⑤

コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な取組みの方向】

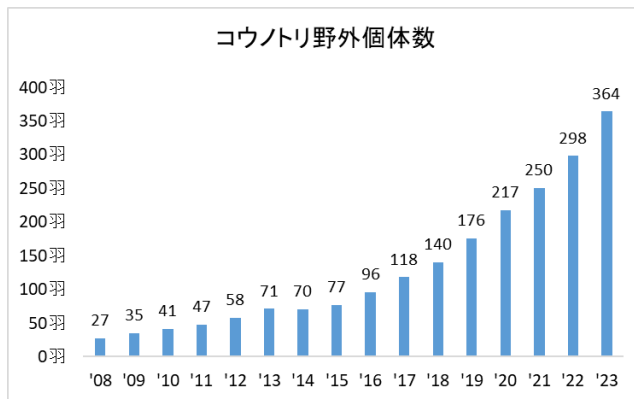
(1) (2) (3) (4) (5)
(7) (8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

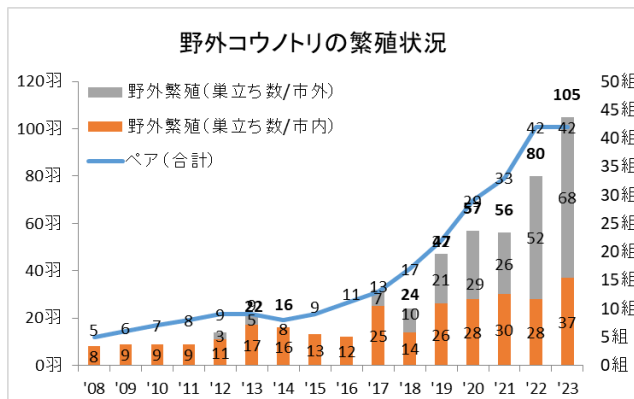
コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(1) 野外のコウノトリの状況

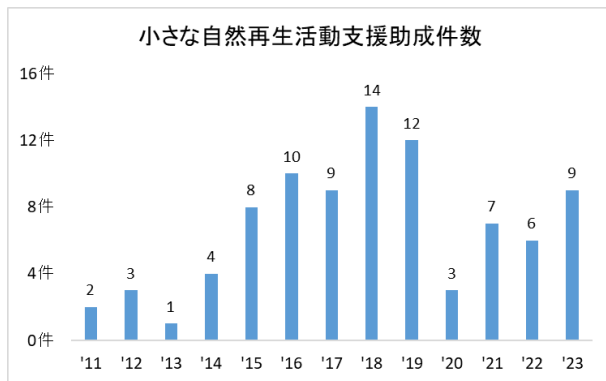


- ・2005 年の試験放鳥から、野外コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地を訪れています。2017 年度には、47 都道府県全てでコウノトリの飛来が確認されました。
- ・年間を通じて約 50 羽前後のコウノトリが市内に定着しています。

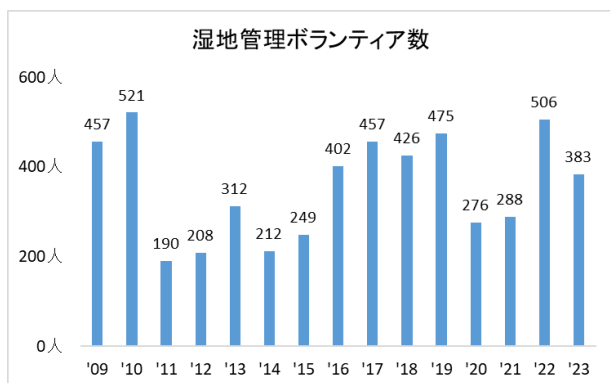


- ・2023 年度の野外繁殖（市外）は、新規営巣した 6 市町を含め、市外 21 市町で繁殖しています。
- ・営巣地の内訳は、養父市、朝来市、淡路市、稲美町 (New)、栃木県小山市、茨城県神栖市 (New)、行方市 (New)、石川県津幡町 (New)、志賀町、福井県小浜市、鯖江市、越前市、京都府綾部市、京丹後市、鳥取県八頭町、北栄町、島根県雲南市、広島県世羅町 (New)、徳島県鳴門市、香川県まんのう町 (New)、佐賀県白石町です。
- ・繁殖ペアが増えてきた一方、巣立ち後の幼鳥が防獣ネットや電気柵に絡まり、救護・死亡する事例が増加しています。

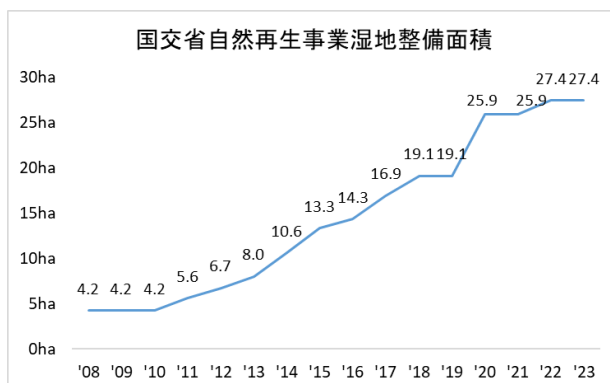
コウノトリが生息できる環境の整備



- ・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生活動(ビオトープづくり、外来生物の除去など)」を支援しています。
- ・2019年度から、補助上限額が10万円から5万円に変更になりました。



- ・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、湿地づくりや外来種駆除などの保全・管理作業を進めています。
- ・2020、2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、ボランティアの活動自体が少なく、参加者数も減少していましたが、2022年度以後はコロナ禍以前の水準に回復しました。



- ・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。
- ・2020年度に正確な湿地整備面積が算出されたことにより、面積が大きく増加しています。



※国土交通省豊岡河川国道事務所「円山川水系河川整備計画(国管理区間)の概要」

https://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/maruyamagawa/pdf/38_KASENSEIBI_KEIKAKU_GAIYOU.pdf から抜粋

※現在整備事業中の箇所も含まれます。

生物多様性の保全に取り組む市内 2 カ所が 「自然共生サイト」に認定

Topics

民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する「自然共生サイト」に「コウノトリ育む中筋の里地里山」（豊岡市申請 56.4ha）と「コウノトリ育む祥雲寺水田」（兵庫県立大学大学院申請 7.2ha）の 2 カ所が認定されました。

「自然共生サイト」は、2030 年までに国土の陸・海それぞれ 30% で生態系を保全する「30by30」という目標を達成するため、国が 23 年度から開始した制度です。

認定区域は、国立公園等の保護地域との重複を除き、国際データベースに登録されます。登録されると、生物多様性に貢献している自治体や企業であることを国内外にアピールできます。

豊岡市では、市内の民間企業に対しても認定登録へ向けて働きかけていきます。



2 2023 年度評価

評価

- 野外で暮らすコウノトリの個体数が増加している。
- 円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。
- ▲外来種駆除が難航している。

この調子で
がんばろう

※外来種とは、もともとその地域に生息・生育していないのに、人間の活動により意図的・非意図的に持ち込まれた生きもののことです。中でも、在来の生きものに悪影響を及ぼす外来種を侵略的外来種と呼びます。豊岡市では写真のような外来種が生息・生育しています。



ブルーギル



ヌートリア



カダヤシ



オオフサモ



オオキンケイギク

目標像⑥

さまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【主な取組みの方向】

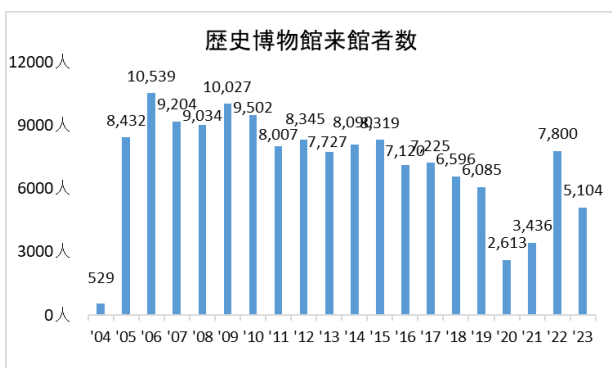
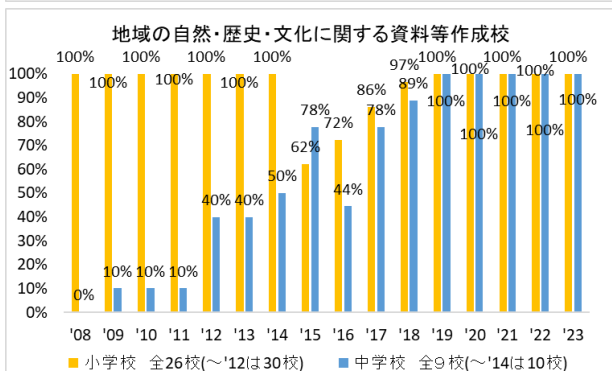
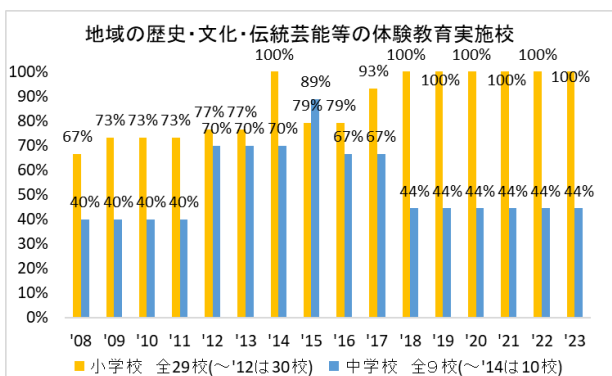
(7) (8) (9)

【具体イメージ】

地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、“地域を知る”という視点を意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」の体験教育に取り組んでいます。

※統廃合により市内の小中学校数は、減少しています。2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校、2022年から25校、2023年から23校。
※市内の中学校数は、2014年まで10校、2015年から9校となりました。

- ・2019年4月26日にリニューアルオープンしました(改装工事のため、2月20日～4月25日まで休館)。
- ・2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者数が減少しましたが、2022年度は特別展の盛況もあり、コロナ禍以前の水準に回復しています。
- ・2023年度もコロナ禍以前の水準に迫るまで回復しています。

歴史博物館「但馬国府・国分寺館」では、公開講座を実施しています。

※2023年度から「市民学芸員養成講座」も同じ趣旨として加算。

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
公開講座	5件	14 件	11 件	19 件
参加人数	28 人	220 人	174 人	358 人

(2) 豊岡市の無形民俗文化財

第3部「豊岡市の環境の状況」(p.48) 参照

地域コミュニティ

地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取り組みです。地域コミュニティ組織では、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行っています。

<地域コミュニティの行事事例>

各区では、地域の歴史・文化等に関する行事や広い世代の交流行事が行われています。

コミュニティ国府【つくるよろこび会】

このプロジェクトは、県内2大学と連携し推進している事業であり、神戸のものづくりグループとの交流も図っています。手芸作品の製作という“ものづくり”を通じて「つくる楽しさやよろこび」を子どもや若い世代に体験してもらうことを目的に、「つくるよろこび展」を年に一度開催しています。

手芸作品の展示や販売は各作家の満足感や達成感を醸成し、ものづくりを体験する場として子どもから高齢者まで体験できるワークショップは異年齢間交流のよい機会となっています。また、この会はものづくりを通じた会員相互の居場所のひとつともなっています。



西気コミュニティセンター「西気明日のいしずえ会」【神鍋大根プロジェクト】

神鍋高原の寒暖差のある気候と、神鍋山の火山灰でできた“黒ぼく土”の耕作放棄地を利用した大根づくり「神鍋大根プロジェクト」を始め、9年目になります。

3つの目的（①耕作放棄地の活用、②世代間交流、③運営資金の獲得）を掲げて活動しています。

世代間交流では、地域の小学生、こども園の園児、老人会、福祉施設の方々と活動を行い、2年前からは姫路や神戸、加古川など遠方の方々も活動に参加していただくなど、関係人口の輪は広がっています。



他の地域コミュニティの活動事例については、
豊岡市地域コミュニティ HP（下記 URL、右記二次元
バーコード）からご覧いただけます。
<https://toyooka-community.city.toyooka.lg.jp/>



Topics

柳まつりが 4 年ぶりに通常規模で開催

豊岡市の夏の風物詩である「柳まつり」が、コロナ禍による中止や規模縮小を経て、4 年ぶりに通常規模で開催されました。

初日は、みこしの巡行が柳の宮神社（小田井町）を出発し、稚児行列と共に大開通を練り歩きました。

地元小学生がつくる「子供連」には約 700 人、大人たちによる「豊岡おどり」では約 1,300 人が参加しました。

2 日目の花火大会では、円山川の堤防から打ち上げられた約 2,000 発の花火が夜空を彩りました



2 2023 年度評価

評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶことが子どもたちに浸透している。
- ▲少子化、高齢化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっている。

この調子で
がんばろう

目標像⑦

子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【主な取組みの方向】

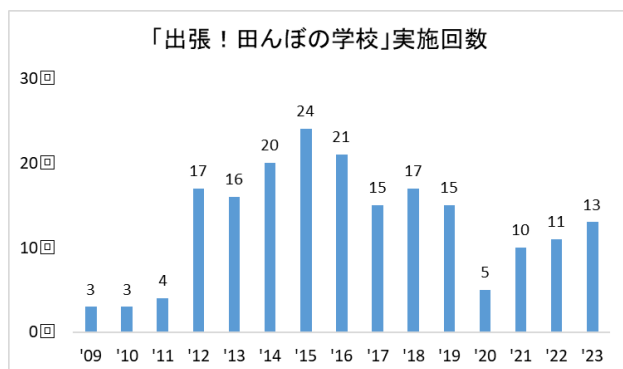
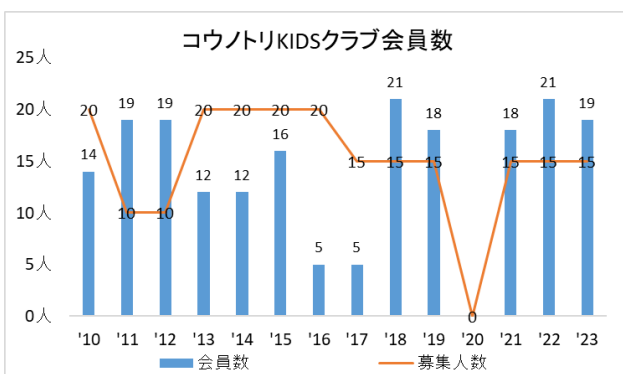
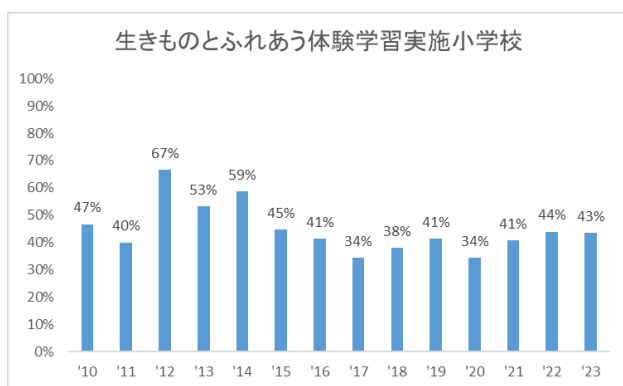
(1) (2) (3) (4) (5)
(8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(1) 自然を学ぶ機会



・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。

※統廃合により市内の小中学校数は、減少しています。2012 年まで 30 校、2013 年から 2020 年まで 29 校、2021 年から 27 校、2022 年から 25 校、2023 年から 23 校。

・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、豊岡市主催の活動です。

・対象：市内小学 4～6 年生

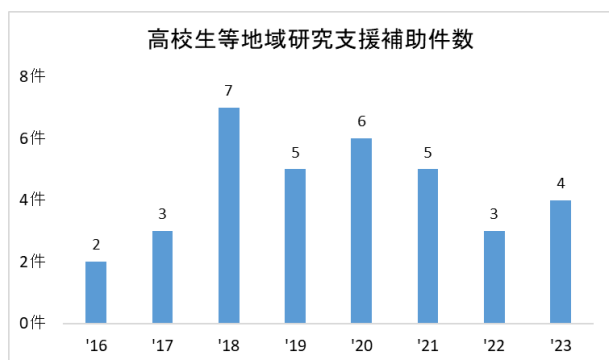
・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、コウノトリ KIDS クラブの募集が取りやめとなりました。

・2021 年度から再開し、2023 年度も募集人数を上回る 19 人が参加しています。

・2023 年度は島根県出雲市の宍道湖グリーンパークでラムサール条約に登録された「宍道湖」について学び、豊岡との共通点や相違点を考えました。

・「出張！田んぼの学校」では、NPO 法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。

・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、実施する団体数が減少しましたが、2021 年度以降は元の水準に回復しつつあります。



- ・高等学校、高等専修学校の生徒が行うふるさと豊岡の誇りであるコウノトリ等に関連する研究や調査、活動等を支援しています。
- ・ふるさとの知見を深め、将来に渡って豊岡とつながりを持ち、取組みに参加する若者を増やすことが目的です。

《2023 年度の研究》

申請者	研究タイトル	内容
クラーク記念国際高等学校豊岡キャンパス	豊岡のコウノトリについて学ぶ	ハチゴロウの戸島湿地における講話や、草刈りなどの湿地保全活動を通して、コウノトリにとって住みよい環境を作ることが、我々の生活にどのように影響していくか学んだ。 現在のコウノトリに関する取り組み状況を知ることができた。
豊岡総合高等学校	総合的な探究の時間「ゴミ拾いから学ぶ環境問題」	地域のゴミ拾い活動を通して、どのようなゴミがどのような場所に捨てられているかを分析し、環境問題解決に向けた具体的な取組を考えるとともに、地域の方との交流を図った。 前述の活動やコウノトリの郷公園に施設見学などを通して、人間が多様な生物と共生していることを体感することができた。
出石特別支援学校	高等部「コウノトリはばたけ学習」	人工巣塔やコウノトリ郷公園での観察、コウノトリ文化館での学習により、自然と地域を愛する心を育てることができた。 また、コウノトリ育むお米で作られた米粉を用いた調理実習や、学校給食センター栄養士による講義で学んだ地元の農業に関する文書を作成し、地域に配布することで普及啓発を行った。
出石高等学校	コウノトリとふるさと豊岡の自然環境を学ぶ	コウノトリとの共生、ジオパークなど、豊岡の自然環境について専門家の講義を受け、体験活動も実施した。 また、希少野生動植物種の保全や、希少な地質や地形を活かした活動について学ぶことができた。

(2) 学べる地域環境

環境学習フィールドとしても活用できるよう、ビオトープ水田の設置を進めています。

《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位: a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積
豊岡	豊岡	0.0	豊岡	神美	154.5 (-5.7)	日高	府中	74.9	出石	弘道	7.5
	八条	103.9 (-0.1)					八代	10.8		福住	9.4
	田鶴野	47.7					日高	41.0 (-0.5)		小坂	0.0
	三江	62.3	城崎	0.0	三方		103.0 (+18.0)	小野		69.2	
	五荘	232.5	竹野	竹野	16.8		清滝	19.1	但東	合橋	212.6 (+44.0)
	新田	0.0				資母				22.1	
	中筋	17.2									
	港	5.2									

※合計面積の推移は p.16 に掲載。数値下の () は前年度との比較数値

※コウノトリ生息地保全対策事業におけるビオトープ設置分のみ記載

豊岡・佐渡両市の小学生がオンラインで コウノトリとトキについて学び合う

9月5日、市立田鶴野小学校と新潟県佐渡市立行谷(ぎょうや)小学校の児童がオンラインによる交流を行いました。

これは、2025年の大阪・関西万博開催を見据え、新潟・兵庫両県が相互に連携して、コウノトリとトキの野生復帰の取組みなどを推進する事業の一環として行われたものです。

当日は、両校の児童がコウノトリとトキの野生復帰の取組み状況などを兵庫県立コウノトリの郷公園の職員と佐渡市の職員からそれぞれ説明を受けた後、コウノトリとトキに関するクイズを出し合うなど、学びを深めました。



Topics

2 2023 年度評価

評価

- コウノトリ KIDS クラブに定員以上の応募がある。
- 人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着している。

この調子で
がんばろう

目標像⑧

市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【主な取組みの方向】

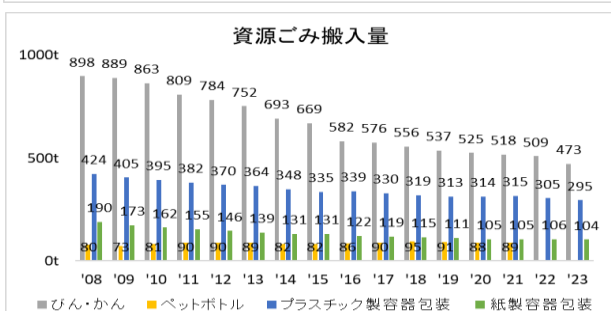
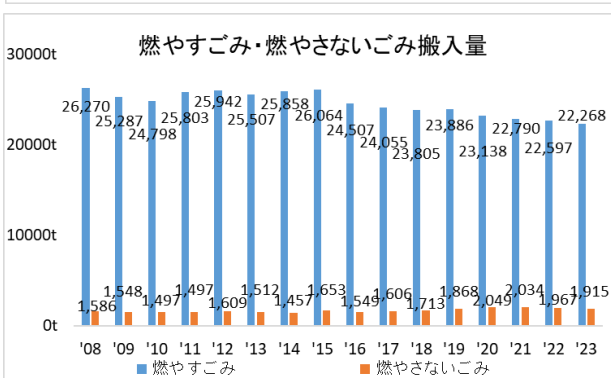
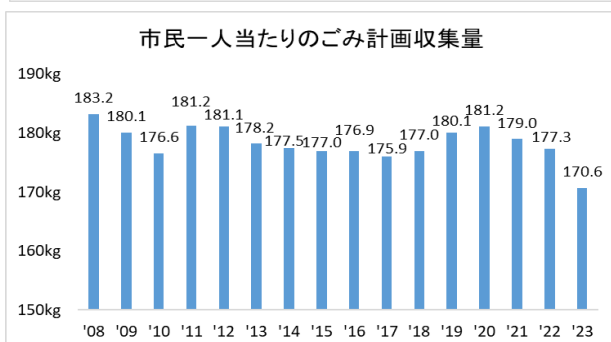
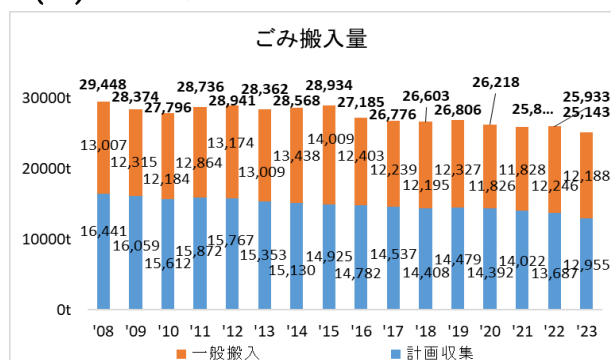
(2) (6) (9) (11) (12)

【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(1) ごみの量



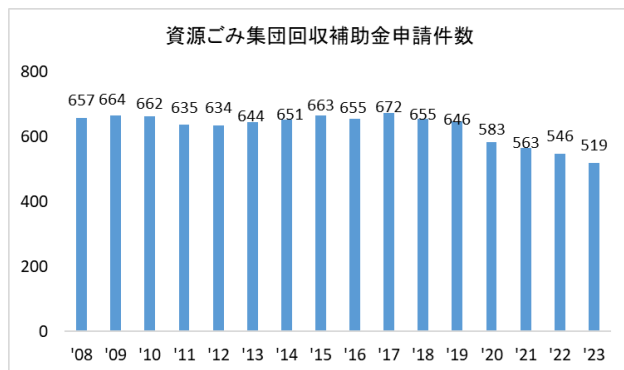
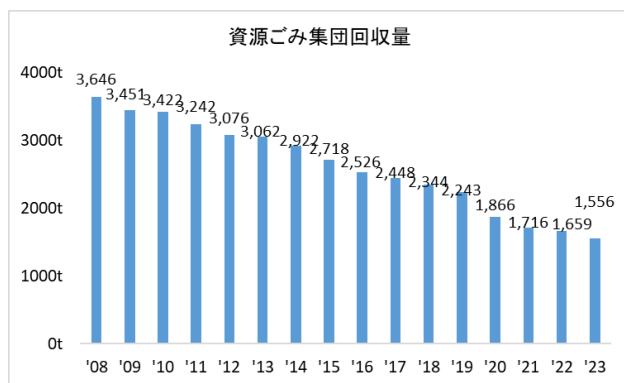
《豊岡市人口(各年度末値)》

年度	人口	世帯
2007	90,443 人	31,808 世帯
2010	88,407 人	32,313 世帯
2015	84,337 人	32,869 世帯
2020	79,446 人	33,421 世帯
2021	78,348 人	33,546 世帯
2022	77,180 人	33,635 世帯
2023	75,919 人	33,733 世帯

- ・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。
- ・2016 年 4 月から一部のごみの分別区分が下記の通り変わりました。
 - ①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみ
 - ②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光灯・乾電池類・粗大ごみの 4 分類
 - ③1 辺 20cm 以上の缶は燃やさないごみ
 - ④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみ

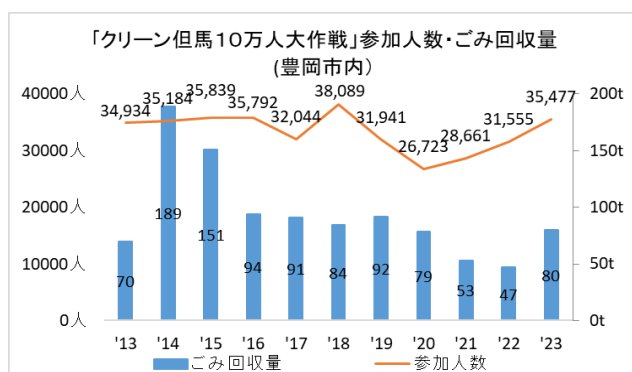
(2) 資源ごみの回収

ほぼ全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。



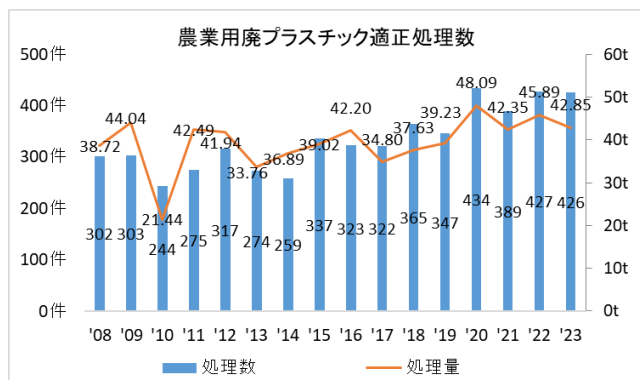
- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、老人会、PTA 等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。
- ・スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。
- ・2013 年度以降、集団回収量は減少し続けています。
- ・2021 年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、資源ごみ集団回収が中止されたことで回収量が一段と減少し、以降、減少の傾向にあります。
- ・同じ団体が複数の活動を申請していることもあります。

(3) ごみ回収の取組み



- ・1990 年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬10万人大作戦」を実施しています。
- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。

- ・ごみ回収量は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」のみで、水路の泥上げ作業で出た「土のう」は除いています。
- ・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により参加人数が減少しましたが、2023 年度はコロナ禍以前の回収量まで回復しました。



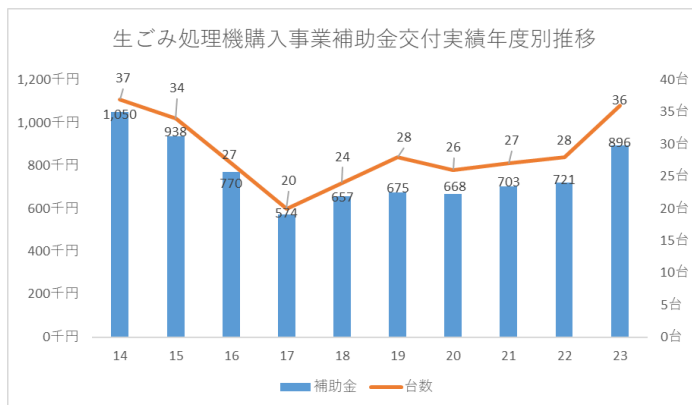
- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、年に一度持ち寄って集団処理が行われています。
- ・最終処分を担っている業者では、資源化(サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル)処分しています。

【サーマルリサイクル】

焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用

【マテリアルリサイクル】

原料として再生利用



- ・「生ごみ処理機購入事業補助金」に関する市民の関心は高く、募集早々に予算枠が埋まる状態です。
- ・生活環境課も予算を増額し、市民のニーズに即した生ごみの減量化を進めています。
※生ごみの水分は焼却処理の燃焼温度を低下させます。生ごみ処理機による生ごみの乾燥化と減量化は、効率的な焼却につながります。

Topics

豊岡市教育委員会が 「プラスチックごみ削減の推進に関する協定」を締結

「豊岡市では豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画を策定し、その計画の数値目標の一つとして、「2030年までに市内公立小中学校のマイボトル用ウォーターサーバー設置率を100%にする」と定めています。

教育委員会は、児童および生徒、その関係者の意識改革を促し、ペットボトル等のプラスチックごみの削減を推進するため、2024年3月27日、ウォータースタンド株式会社と協定を締結しました。市内の公立小中学校にウォーターサーバーを無償で設置していただき、子どもたちは、マイボトルが空になっても、そのウォーターサーバーで補充できるようになります。

ウォーターサーバーの設置をきっかけに、先生や子どもたち、保護者にプラスチックごみを減らす意識や行動が広がっていくことを期待します。



2 2023 年度評価

評価

- 市民一人当たりのごみ計画収集量が減少している。
- 住民が参加する清掃・美化活動では参加人数とごみ回収量とともに増加し、環境美化の意識が高まっている。
- 生ごみ処理機購入事業補助金に関する関心も高く、生ごみの減量化に対する意識も高まりつつある。



目標像⑨

市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【主な取組みの方向】

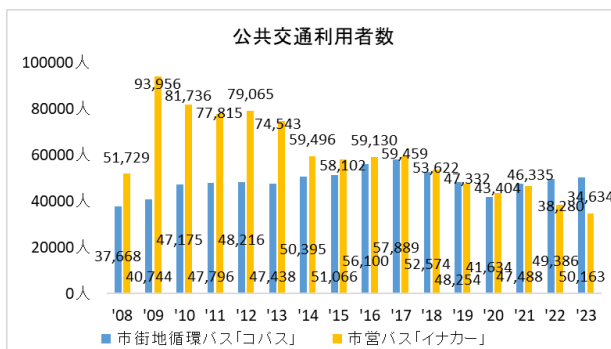
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

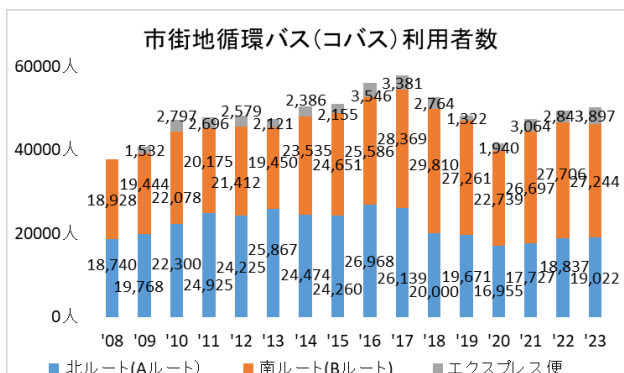
地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(1) 公共交通の利用



- ・公共交通機関を利用することで、各乗用車で化石燃料使用が減り、一人当たりの二酸化炭素(CO₂)排出量も減らすことができます。

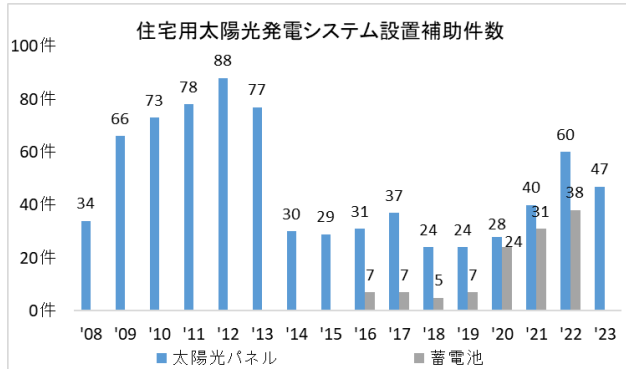


- ・2018年度、コバスの走行ルートが、Aルート・Bルートから北ルート・南ルートに変更されました。
- ・ルート変更に伴い、5カ所のバス停を休止し、3カ所のバス停を新設。各ルートの乗継停留所を豊岡駅とアイティ前に集約しました。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛によりコバス利用者が減少したと考えられますが、2022年度以降はコロナ禍以前の水準に戻りつつあります。
- ・ノーマイカーデー参加者数は第4部 58 ページに記載しています。

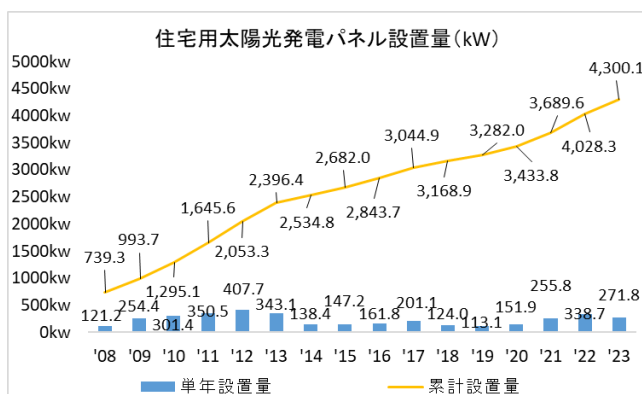
(2) 太陽光発電

太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、二酸化炭素(CO₂)も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。生物多様性や景観への影響に対して、適切に配慮しながら導入していくことが求められます。

豊岡市の施設への太陽光発電システムの設置は1999年度から行っています。各地域の庁舎や小・中学校、コミュニティセンター等に設置されています。



- ・2002年度から住宅用太陽光発電システム設置補助制度が始まりました。
- ・2016年度から、蓄電池も補助対象となりました。
- ・太陽光パネルと一緒に蓄電池をつける場合も後から蓄電池だけをつける場合も対象です。
- ・2021年度から、事業者用太陽光発電システム設置補助制度が始まりました。



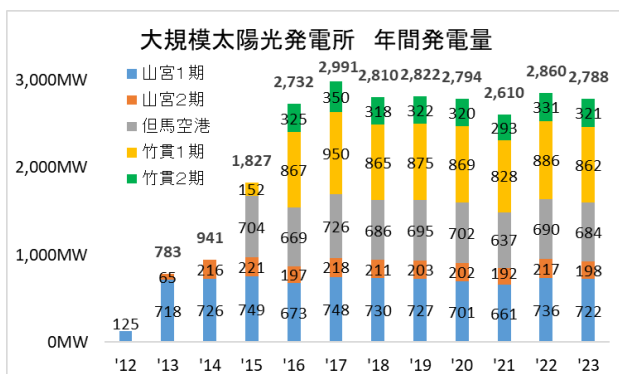
《事業者用太陽光発電システム設置補助》

年度	設置事業者数	年間総設置量
2021	2 者	25.1kW
2022	4 者	53.6kW
2023	4 者	97.0kW

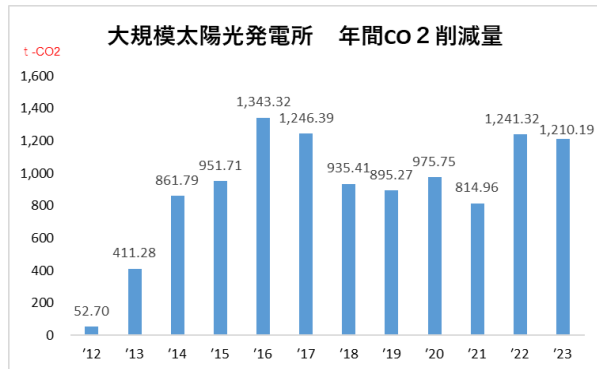
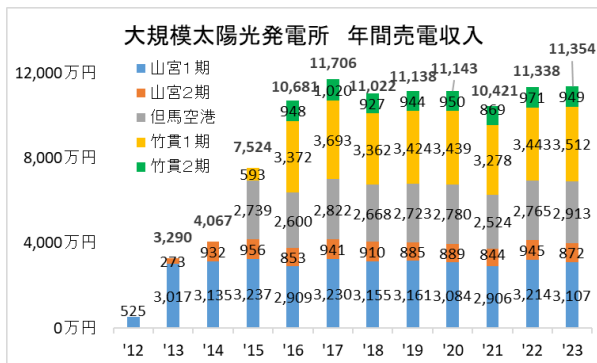
《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

施設名	稼働開始 (年度)	最大出力 (kW)	発電量 (MW)	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第1期	2012	681.0	722.05	313.37
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第2期	2013	318.8	198.45	86.13
コウノトリ但馬空港地場ソーラー	2013	677.6	684.31	296.99
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第1期	2015	823.2	862.29	374.23
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第2期	2015	299.9	321.36	139.47

※CO₂ 削減量は環境省・経済産業省が公表している「電気事業者別排出係数」を基に算出



- ・各大規模太陽光発電所は、固定価格買取制度（FIT 制度）で20年間売電します。固定価格買取制度終了以降の発電については、公共施設等での電力活用を検討しています。



・大規模太陽光発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持管理費の他に、太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用等に充てています。

・CO₂削減量は、【発電量×調整後排出係数（環境省が毎年公表）】の計算式で算出しています。
 ・調整後排出係数は関西電力の数値を使用しています。

豊岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を改定しました

世界的に地球温暖化を取り巻く環境が「低炭素」から「脱炭素」へ大きく変わり、豊岡市も2021年3月議会で「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」ことを表明しました。

その目標実現に向けて、2024年3月に「豊岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」（2016年4月策定）を8年ぶりに改定しました。

1 将来ビジョン：コウノトリ羽ばたく自然豊かな
ゼロカーボンシティ とよおか

2 計画目標：

(1) 2030年度再生可能エネルギー導入目標

2020年度累積実績比 **1.6倍**

(2) 2030年度温室効果ガス削減目標

2013年度比 **54%削減**

（国：46%削減、兵庫県：48%削減）

3 計画期間 2024年度～2030年度（7年間）



豊岡市ホームページ
豊岡市地球温暖化対策実行計画
（区域施策編）

2023年度評価

評価

- 住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。
- 大規模太陽光発電所が順調に発電している。

この調子で
がんばろう

目標像⑩

環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な取組みの方向】

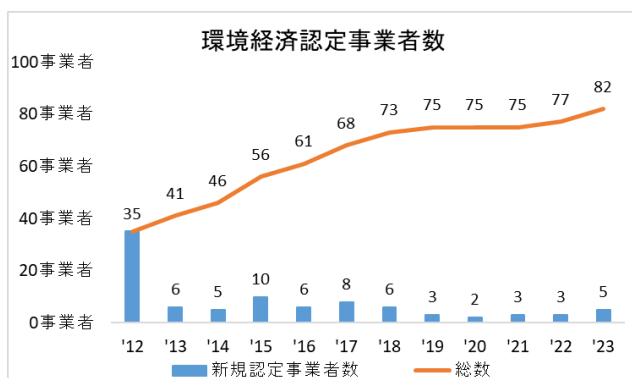
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡の町が元気になっています

I 主な指標の変化(2008～2023 年度)

(I) 環境経済認定事業



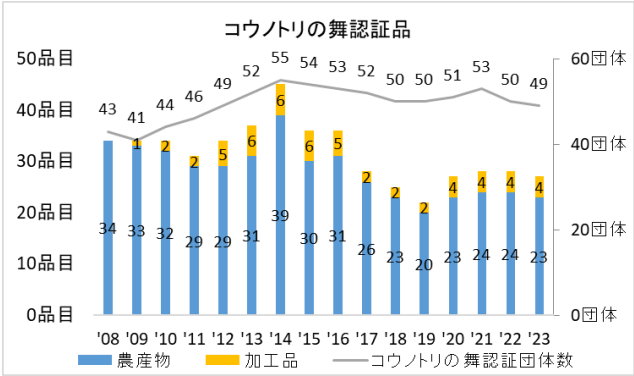
- ・市内の企業で、利益を追求する事業で環境が改善されるものを「環境経済事業認定」しています。
- ・認定事業の実績について、毎年報告が義務付けられており、認定事業が実施されなくなった場合、認定は取り下げられます。
- ・2023 年度までに累計 92 事業が認定され、10 事業が取り下げられました。

《2023 年度環境経済認定事業者》

事業者名	認定事業名	事業内容
パン菓子工房レガーム	コウノトリ育む農法の米粉を使用したパンの製造	コウノトリ育む農法で栽培されたお米の粉を使用したパンをはじめ、地元産の野菜や有機小麦を使用した製品や、アレルギー対応の製品など、安心・安全を意識し体に優しく美味しいパン作り。
D. L. P.	地域産業の廃棄物を活用した、地元特産品の生産・販売	廃棄される但馬牛の皮を鞣し、仕上げた革を使用し、自然のいただきものを無駄にせず形にしたオリジナル革商品「Tajima Cow Hide」シリーズを生産。
株式会社西山工務店	自然砕石のみを使用する環境に配慮した地盤改良工事	自然砕石のみを使用する「エコジオ工法」、「エコジオ ZERO（無排土）工法」を実施。セメントや鋼管を使用しないため、材料製造段階での CO2 排出を大幅に削減でき、施工時に騒音・振動が少ない。
Alter Ego MATIC	コウノトリ育むお米と規格外の地域食材をふんだんに使った自家製スイーツの製造販売	コウノトリ育む農法で栽培されたお米の米麹や米粉を使用した、甘麹ドリンクやパンケーキなど自家製スイーツを提供。
三宅株式会社	廃材を利用したかばんの企画、販売	珈琲豆の麻袋、廃車のシートベルト、自動車用エアバッグの規格外生地、鞆の製造過程

		で生じる残反（余った生地）など、本来捨てられるはずの素材を利用したかばんを企画、商品化。
--	--	--

(2) コウノトリの舞



・2023年度の登録品目（27品目）

米（うるち、酒、もち）、レタス、コマツナ、ハウレンソウ、小麦、ソバ、トマト、バレイショ、シュンギク、だいこん、キャベツ、黒大豆枝豆、大豆、ショウガ、ブルーベリー、ぶどう、ニンジン、オクラ、トウモロコシ、ネギ（青ねぎ、葉ねぎ）、チンゲンサイ、ピーマン、水菜、生姜シロップ、生姜しばり汁、ブルーベリーソース、ブルーベリージャム

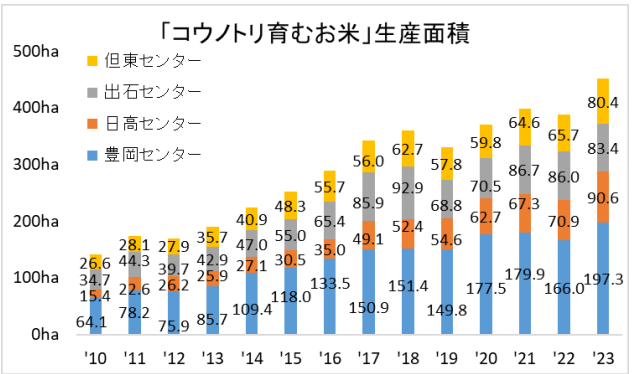
※コウノトリの舞（農産物認定制度）

2003年度創設の「水稻・野菜」を対象とした農産物認定制度。

豊岡市内で生産された農産物に対する信頼を高め、消費の拡大を促し、農業の安定的かつ長期的な振興を図るとともに、安全・安心な農産物とコウノトリの餌となる生きものを育む「環境創造型農業」の普及拡大を目指す。

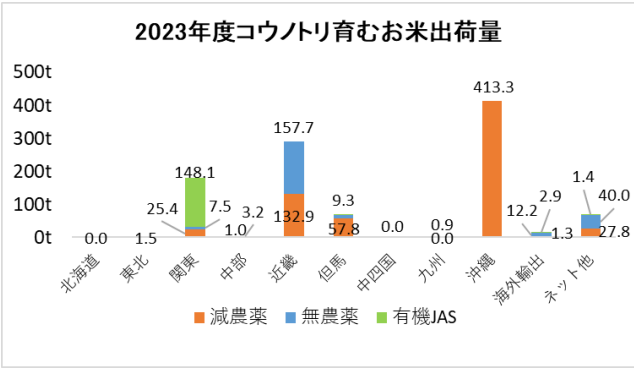
環境に配慮した栽培技術の導入により、安全・安心な農産物および農産加工品を生産する団体を「コウノトリの舞」農産物等生産団体として認定し、認定団体が生産する農産物等には認定ロゴマークを貼付して出荷します。

(3) コウノトリ育むお米



・JA たじま営農生活センターごとのデータです。

・豊岡市の水田面積の約1割がコウノトリ育むお米の水田になっています。



・2023年度のコウノトリ育むお米の出荷量約1,044tのうち、約16.4tが海外に輸出されています。

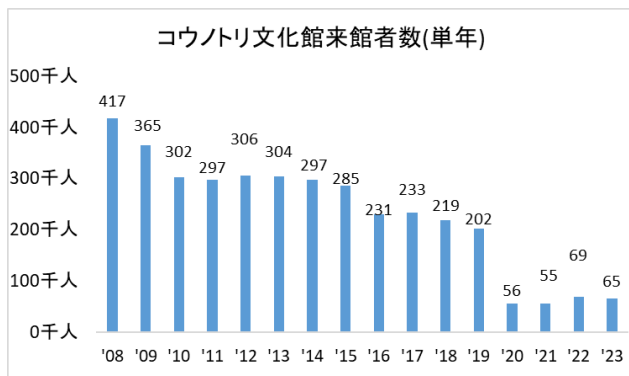
・大部分は国内で消費されており、沖縄県および関東、関西の都市圏で消費されています。

・消費者の食の安全志向の高まりに加え、コウノトリの野生復帰の物語が反響を呼び、コウノトリ育むお米は年々出荷量が増えています。特に無農薬で育てられたものについては品薄になるほど人気となっています。

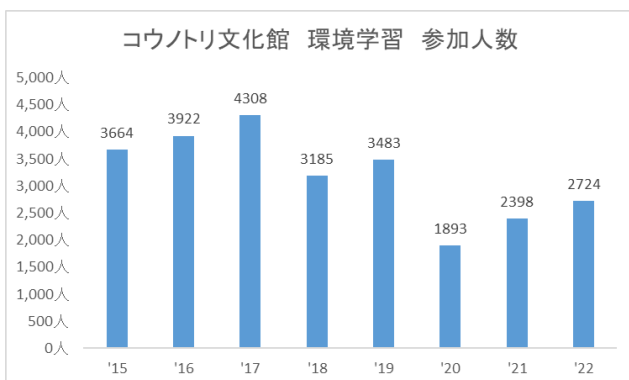
《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》

年度	輸出国・地域(国・地域数)	輸出力
2016	アメリカ、シンガポール (2)	1.50t
2017	アメリカ、シンガポール、香港 (3)	7.80t
2018	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国 (5)	17.16t
2019	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾 (6)	17.27t
2020	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾、スイス、フランス (8)	22.23t
2021	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、フランス、オランダ (8)	18.60t
2022	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、オランダ (7)	20.60t
2023	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、オランダ、イギリス (8)	16.38t

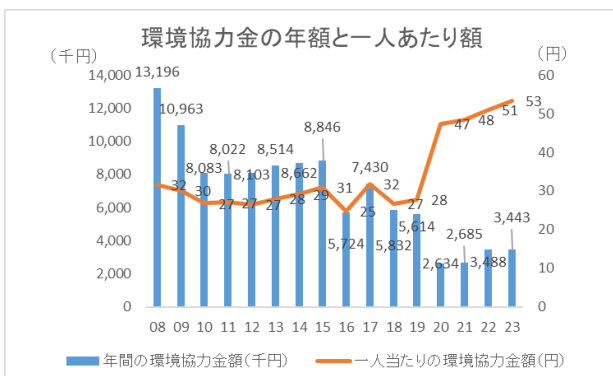
(4) 人・もの・情報の交流



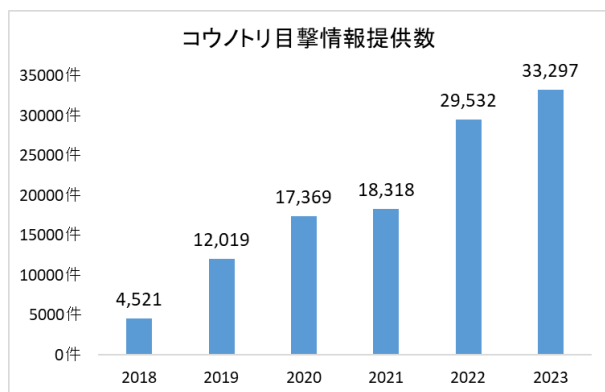
・2019年度から2020年度は、緊急事態宣言中の閉館により、来館者数が減少しました。現在も、観光形態の変化などでツアー等の団体客が減少していますが、個人旅行者や視察、外国人客は増加しています。



・観光形態の変化では、ツアーのような集団観光的な団体客数は回復していませんが、視察や環境学習の参加者は、緊急事態宣言前の状態に戻りつつあります。



・2020年以降、コウノトリ文化館の来館者一人当たりの環境協力金の金額は増加しています。



【出典：コウノトリ市民科学のサイトより】

- ・市民参加によるコウノトリのモニタリング「コウノトリ市民科学」には、全国からコウノトリの目撃情報が提供され、市民間で情報交換がされています。
- ・コウノトリの目撃情報も、47都道府県全てで目撃されています。
- ・コウノトリの野外個体数増加に併せて、目撃情報提供数も増加しており、2023年度は3万件を超えました。

<宿泊を伴う市外からのボランティア活動による交流・地域活性>

市外の企業や団体、学校が環境保全活動ボランティアの際に、宿泊や観光も行うことで、地域の活性化につながります。ボランティアでは、湿地の乾燥化を防ぐために池を作ったり、草刈や水路を広げる保全作業、外来種駆除等を行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症対策により、ボランティア数が1件に留まりましたが、2021年度は3件に増加しました。

2022年度からは旅行会社により、ボランティア体験がツアー内容に含まれたボランティアツアー（年間複数件 催行）が企画されるようになりました。

《宿泊を伴う市外からのボランティア件数》

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
件数	3件	3件	3件	5件	6件	4件	5件	1件	3件	4団体	2団体

神鍋高原ゆきみらい行動計画 KICK OFF PARTY

Topics

2023年1月、日高神鍋観光協会では、次世代の子ども達と神鍋の未来に向けて100年後も雪を残すため「神鍋高原ゆきみらい100年宣言」を行いました。

この宣言をもとに、神鍋ブランドの確立に向けて「神鍋高原ゆきみらい行動計画」を策定し、3つのアクションの柱を定めました。

- ・気候変動対策（カーボンニュートラル）
- ・地域資源の活用と再生（ネイチャーポジティブ）
- ・選ばれる観光地づくり（サステナブルツーリズム）

2024年2月には、雪山を愛するスキーヤー・スノーボーダー、関係者、市長、市議会議員、行政職員など、多くの立会者のもと、KICK OFF PARTYが開催されました。



2 2023 年度評価

評価

- 環境経済認定事業者が年々増加している。
- コウノトリ文化館の来館者はコロナ禍以降、団体観光客の減少により減少しているが、集団観光から個人での環境学習といった内容に変わり、一人当たりの環境協力金の増加からも見て取れる通り、取り組みに対する評価は高まっている。

